



# 本願力

横浜別院だより

〒234-0051

FAXTEL  
 (http://www.yokohama-ootani.com)  
 (045) 841-3434  
 (045) 841-3428

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院  
 横浜市港南区日野一十一



【去来現 (こらいげん)】 作 早乙女 須洋

動き出す  
 神奈川教化センターVOL・7  
 輪番 坂田 智亮

この数年、私がお世話になり  
 お力添えを頂いた多くの先達、  
 大切な時間を共にしてきた友が  
 どんどん足早に浄土へ還って往  
 なく。そのたびに悲しく寂しく切  
 ないが否応なしに去来して、人生  
 の意義を改めて問わざるを得な  
 いのである。

「生死無常のことわり、くわし  
 く如来のときおかせおわしまし  
 てそろううえは」『末燈鈔』  
 このところ、この厳しいお言  
 葉を大切に反芻しているような  
 次第であります。

過日、石牟礼道子さんが亡く  
 なられた。不知火海、恵の海と  
 ともにあった人々の暮らしがい  
 かに奪われていったか、水俣の  
 生活を通して、公害や環境の破  
 壊にとどまらない近代の価値を  
 問うていかれた石牟礼さん、人  
 間の愚行と向かい合うその原点

は常に名もなき民衆への深い信  
 頼と尊敬であったように思う。  
 「祈るべき天と思えども天の病  
 む」 「生死のあわいにあればな  
 つかしく候 みなみなまぼろし  
 のえにしなり」いづれも、水俣  
 の現実凝視から辿られた言葉で  
 あるがゆえに、その思索の深さ  
 に驚嘆し深い頷きを覚えるので  
 ある。

この横浜はある意味日本の近  
 代化の象徴的存在と言えよう。  
 開港百五十年、電話・鉄道・ガ  
 ス灯、はたまたビール・アイス・  
 食パン等々日本初がドンと並ぶ。  
 近代化を成し遂げるために成長  
 を最優先し、欲望をかきたてる  
 政治や科学への信頼、繁栄に酔  
 い効率に走る枠組みは何があつ  
 ても何も変わらず、矛盾に目を  
 向けぬ人々が再生産され、その  
 結果、大切な何かを喪失し、破  
 壊してしまったように思うのは  
 私だけであろうか。

平昌冬季オリンピック、スケー  
 トの小平奈緒さんは、レース後  
 の韓国選手との抱擁シーンが印  
 象的であった。ライバルであり  
 つつ特別な交流があったそうで  
 ある。競い合い、励ましあい尊  
 敬し合える友達がいる。敵愾心、  
 嫉妬心を持ちながらも、国、民  
 族、人種を超えてつながるその



姿は、微笑ましく、ささやかな喜びを感じたものである。

人間の求めてきたものは、欲望満足、便利で快適な生活空間の実現ではなく、ともに生きる世界の共有であったはずである。理想・理念、夢と現実との落差に生ずる悲しみと悩み、そこに教えを聞く手がかりがあるように思う。

別院・教化センターの使命は、時代社会に行き詰まり、苦悩する人々に本願念仏によって、今一度、人生を獲得し直す場を創出することであることは間違いない。根源的「やさしさときびしさ」が実感でき交流できる「時と場」をどこまでも追い続けたい。今月は、愈々グリーンフケアの研修会が始動する。

### 元気なお寺づくり講座第二回・第三回

講師 竹原 了珠 師

元気なお寺づくり講座は、各寺院が元気になる実現可能な事業計画書を作成するための講座として開講されている。第一回目は、昨年十二月十四日に開講され、今年に入り第二回目が一月十七日、第三回目が二月十四日に行われ、全五回日程の内三回の講座が終了した。

第一回目の講座は外部環境の講義を受け、参加者はそれぞれのお寺の外部環境を機会（チャンス）と脅威（ピンチ）とに分けるワークを行った。

第二回目は、初めに無形の価値の説明があり、それぞれの班で「無形の価値の棚卸し」のワークを行った。無形の価値とは、

人の力、組織の力、関係性の力など、お寺の目に見えない強みのことであり、ワークをおしてそれぞれのお寺の目に見えない強みを明確化する作業を行った。次に「ビジョンにつながるアイデア出し」のワークを行った。「ビジョンにつながるアイデア出し」とは、外部環境における機会と無形の価値におけるお寺の強みを整理し、それを踏まえてそれぞれのお寺の目指したい将来像（ビジョン）、具体的なアイデアを参加者が思いつくままに書き出していく作業のことである。次に、その出し合ったアイデアを二つに絞り、アイデア毎に、無形の価値（強み）と外部環境（機会と脅威）を整理するワークを行った。最後に、お寺のビジョン（将来像）を各班ごとで考えるワークを行い、第二回の講座は終了した。講座の初めと終わりに、チェックインとチェックアウトという参加者が一言コメントを発言する時間があるのだが、チェックアウトでは難しかったというコメントが多かった。私自身参加者として難しいという印象を受けた。それは説明を飲み込む前にワークに入り、作業に追われ、忙しく終わったという印象が難しいという感覚につながっているのではないかと思う。

第三回目は、マーケティングの基本講義と、セグメンテーション、ターゲットティング、ポジショニングという考え方の説明を受けた。続いて、事前に配布されていた、架空のお寺のケーススタディと架空の行動計画書（お寺のビジョン、外部環境、無形の価値、お寺の使命）をもとに、架空のお寺の

報恩講をどのように再興できるのかを、セグメンテーション、ターゲットティング、ポジショニングという考え方を利用して各班ごとによりワークし発表を行った。今回は架空のお寺の事業計画書を作成するワークであったが、次回からは各寺院が各寺院ごと事業計画書を作成するワークがスタートする。今回で3回の講座が終了した。第一回目、第二目の講座では漠然としていた作業が、第三目の講座を終えて、こういうことであるのかと明るくなった感じがしている。第四回目の講座に向けて作業計画書を作成する宿題がある。今までの作業をおして明るくなった視点でどういう事業が考えられるのか面白くなってきたように感じている。

（文責 佐竹）

団体参拝ありがとうございました



【2月5日 茨城一組ご一行様】

三浦組寺子屋

「念仏のある生活・教えに出会う」

講師 藤原 正寿 師

去る二月十六日、三浦組西來寺（横須賀市）を会場に「寺子屋」が開催されました。寺子屋とは、江戸時代の上方面において、寺院で手習師匠が町人の子弟に読み書き・そろばん等を教えた学問施設のことを指します。三浦組では門徒さんたちに親しみのある聞法の間として「寺子屋」が開かれています。六十三名の参加者があり、本堂全体が熱気に包まれていました。

講師の藤原正寿師は、念仏のある生活についてお話されました。藤原先生は、念仏のある生活とは、どのような生活なのかを問いにして、「親鸞聖人は仏法を聞いて、念仏をすると救われるとおっしゃっていない。仏法を聞くということがそのまま信心を得るということである。」とまず始めにおっしゃられました。「念仏を通して、仏法を聞くことの大切さに気付くことで、ますます仏法を聞かねばならないこの身を大切に。阿彌陀仏の本願を自分の中心に置くことは、仏法をいたしながら生活するということ。つまり、今まで座り込んでいた自分に気付くということ。お念仏のない生活でも生きていけるが、阿彌陀仏の側から、それで大丈夫ですか？と、こちら側に督促状が届いているんです。ご催促とも表現できますが、仏法のある生活とは、本当に自分の大切なものを考えるこ

縁に出遇っていくことです。阿彌陀仏は、実際の仏さまではなく、救ってくださるはたらきのこと。人間の苦悩をご縁として、仏さまに出遇って欲しいというのは、仏さまの願いなんです。仏さまの呼び声に耳を傾ける生活が念仏のある生活につながっていくわけです。」

お話を聞いていく内に、私は藤原先生の力強い言葉ひとつ一つに元気づけられる思いになりました。念仏を申す生活をするとは、ややもすれば、自分が念仏しているように思ってしまうが、実は仏さまの側からの呼び声であったら、その仏さまが大変なはたらきをしてくださっているんだと、そう感じました。

「如是我聞」として聞かせていただくことから始まり、仏法を聞くということがそのまま信心をいただくことあります。今回も尊いご縁を頂きましたことに感謝しております。（文責 家本）



→ 講師 藤原師



→ 寺子屋の様子

《神奈川四ヶ組行事予定表》

《横浜組》

【横浜組門徒研修会】

【日時】五月三十一日（木）午後一時半～

【講師】瓜生崇師（京都教区玄照寺住職）

【会場】本願寺横浜別院

《三浦組》

【二〇一八年寺子屋】

【第二回】

【日時】三月六日（火）午後一時～

【講師】荒山 淳師

【会場】（名古屋教区教化センター主幹）  
浄栄寺（横須賀市吉倉町）

【第三回】

【日時】四月九日（月）午後一時～

【講師】黒田進師（長浜教区満立寺住職）

【会場】來福寺（三浦市南下浦町上宮田）

本願寺横浜別ホームページ  
リニューアル!

三月より、ホームページをリニューアル予定です。以前よりも、使いやすく見やすくなっております。ぜひご覧下さい

http://www.yokohama-otani.com/hongani.jp/



— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2018年3月～4月

～どなたもご自由にお参りください～

**定例法話** 午後1時30分より

3月9日(金)横浜組 良泉寺 本郷 成道 師

3月28日(水)別院 輪 番坂田 智亮 師

4月9日(月)湘南組 正恩寺 鞠川 卓史 師

4月28日(土)別院 輪 番坂田 智亮 師

**横浜別院同朋の会** 午後1時30分より

4月18日(水)同朋の会日帰り旅行の事前学習会を行ないます。『親鸞聖人とその弟子』

※3月18日の同朋の会は休みです。

**春季彼岸会法要** 午後1時30分より

3月20日(火)、21日(水・祝)

【法話】近藤 龍磨 師

(岐阜教区第一組 廣専寺住職)

ご門徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。さて、春のお彼岸が近づいて参りました。当別院では「春季彼岸会法要」をお勤め致します。お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、あらためてそのような問いかけに耳をかたむけ、自分の生活を振り返る大切な時なのです。そろってご参詣ください。

**別院同朋の会日帰り研修旅行**

5月12日(土)

【行程】茨城県方面

(親鸞聖人御旧跡・二十四輩)

【参加費】7,000円(予定)

【願い】昨年は箱根における親鸞聖人御旧跡を散策しましたが、今年は親鸞聖人御旧跡・二十四人輩を散策する計画を立てています。二十四輩(にじゅうよはい)は、親鸞の関東時代の高弟24人と、その24人を開基とする寺院のことです。

※詳細は別院までお問い合わせ下さい。日程等の変更がある場合がありますので、ご了承ください。

**第26回神奈川ブロック聖典学習会**

4月13日(金)

午前10時45分～午後4時

【講師】三木彰円 師 (大谷大学准教授)

【学習聖典】『一念多念文意』

【会場】本願寺横浜別院

(横浜市港南区日野1-10-8)

※駐車場16台あります。

【参加費】1,000円

【携行品】念珠、勤行本、真宗聖典、筆記用具

【聴講対象】寺院、一般希望者

※参加申込は不要です。直接会場にお越し下さい。第27回は6月29日(金)です。

**絵画について**

タイトル【去来現】

私は桜の花よりもそれを支えている幹や枝に、いとおしさを感じます。威風堂々たる立ち姿、他の木立と異なり、成長方向を直感的に変化させながら、花の美しさを最大限に導きだしていきます。早朝の静けさのなか、力強く支えられている、ひかり輝く花を描きました。

横浜組智廣寺門徒

早乙女 須洋

※去・来・現：過去・現在・未来のこと

**編集後記**

表紙の絵画は、今回で二回目の掲載となりました。春のイメージと言ったら、「桜」でしょうか。厳しい寒さであった冬がいよいよ終わり、桜舞い散る季節がもうすぐやってきます。生命の息吹を感じます。(家本)